

医療に関する市民アンケート調査の速報値について

1 目的

健康・医療に関する市民ニーズを把握し、市民が安心して医療を受けることができるよう、在宅医療推進などの地域医療の向上に向けた企画立案及び基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の概要

調査対象者	吹田市に在住する 20 歳以上の男女
配布数	3,000 人
抽出方法	無作為抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収
回収数	1,843 人※
回収率	61.4%
調査期間	平成 28 年 8 月 9 日～平成 28 年 8 月 29 日

※無記入の調査票があるため、標本数は無記入のものを除いた数 (N=1,842) としている。

3 調査項目

(1) 本人の状況 (基本属性)

- 1 性別
- 2 年齢層
- 3 居住地 (6 圏域別)
- 4 家族構成
- 5 加入している健康保険の種類
- 6 要介護認定 (要支援含む) の有無
- 7 要介護認定結果
- 8 定期的な受診状況
- 9 世帯の年間収入

(2) 医療情報の入手方法

- 10 医療情報の入手先

(3) 医療機関の機能分担・選定療養費について

- 11 医療機関の機能分担の認知度
- 12 選定療養費の認知度
- 13 自身が病気になった場合の選定療養費を踏まえた受診行動

(4) かかりつけ医について

- 14 かかりつけ医の仕組みの認知度
- 15 かかりつけ医の有無
- 16 かかりつけ医の種類 (一般病床 200 床以上の市内の病院・それ以外の病院等)
- 17 かかりつけ医を選択した理由 (一般病床 200 床以上の病院)
- 18 かかりつけ医を選択した理由 (それ以外の病院等)
- 19 かかりつけ医がない理由

(5) かかりつけ歯科医について

- 20 かかりつけ歯科医の有無
- 21 かかりつけ歯科医を持った理由

(6) かかりつけ薬局について

- 22 かかりつけ薬局の有無
- 23 かかりつけ薬局を決めていない理由
- 24 おくすり手帳の所持・活用状況

(7) ジェネリック医薬品について

- 25 ジェネリック医薬品の認知度
- 26 ジェネリック医薬品の使用希望の有無
- 27 ジェネリック医薬品を希望しない理由

(8) 在宅医療について

- 28 在宅医療の認知度
- 29 在宅療養に対する希望
- 30 在宅療養を希望しない理由・困難だと思う理由
- 31 自分の人生の最期はどこで迎えたいか
- 32 家族の人生の最期はどこで迎えさせてあげたいか
- 33 人生の最期の場所で自宅を選んだ理由
- 34 人生の最期を迎えたい場所について、家族と話をするか
- 35 人生の最期を迎えたい場所について、家族と話をしない理由

(9) 救急医療について

- 36 市内救急病院以外の相談・受診先の認知度
- 37 平日夜間の急病時に受診する医療機関

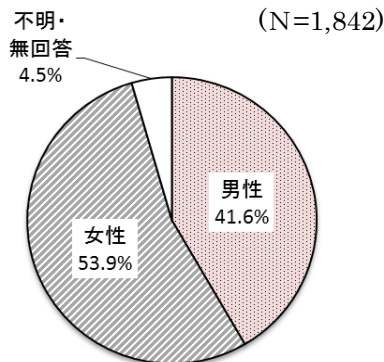
(10) 充実して欲しい医療について

- 38 充実して欲しい診療科目
- 39 充実して欲しい医療

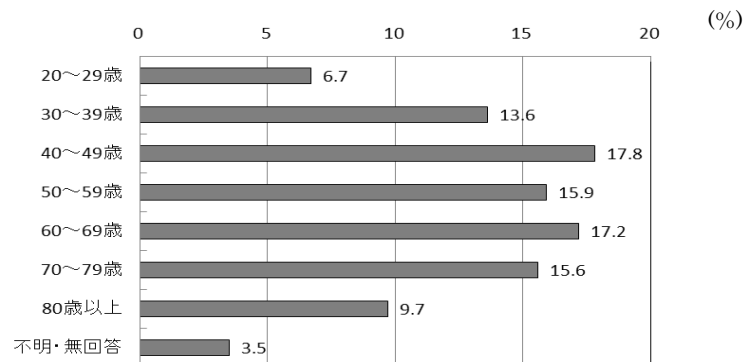
(1) 本人の状況

ア 年齢・性別

- ✓ 回答者は、男性が41.6%、女性が53.9%
- ✓ 年齢についてみると、40歳代が17.8%で、次いで60歳代が17.2%となっている。



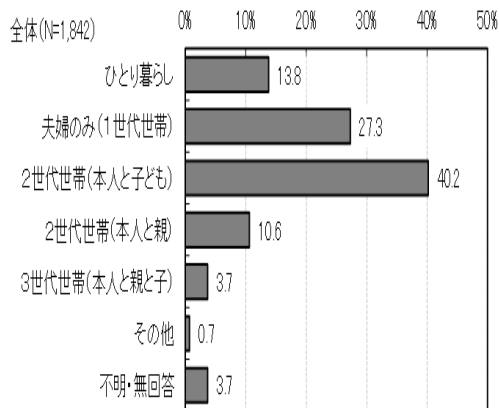
【図 1-1 性別】



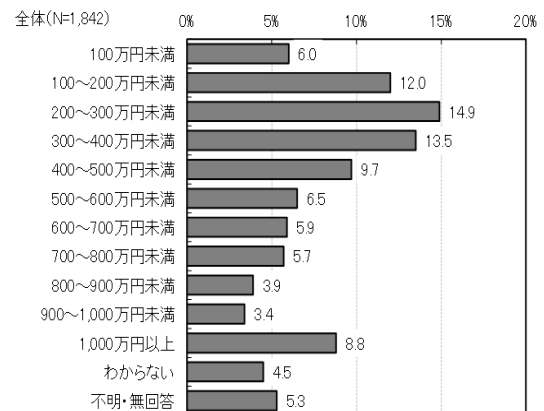
【図 1-2 年齢】

イ 家族構成・年間収入

- ✓ 家族構成では、「2世代世帯(本人と子ども)」が40.2%で最も多く、次いで夫婦のみ世帯となっている。
- ✓ 年間収入では、100万から400万未満の合計が約4割を占めている。



【図 1-3 家族構成】

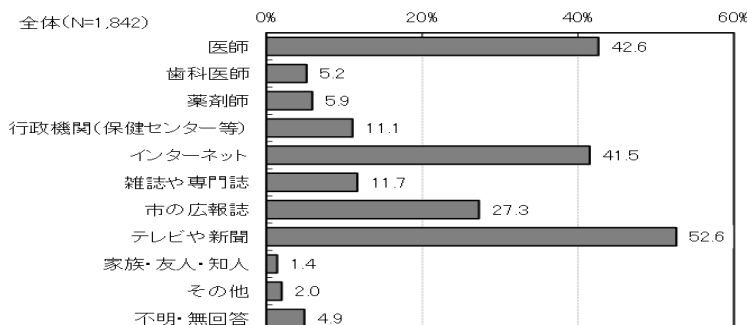


【図 1-4 年間収入】

(2) 医療情報の入手方法

ア 医療情報の入手先 (複数回答)

- ✓ テレビや新聞が最も多く、次いで医師、インターネットの順になっている。

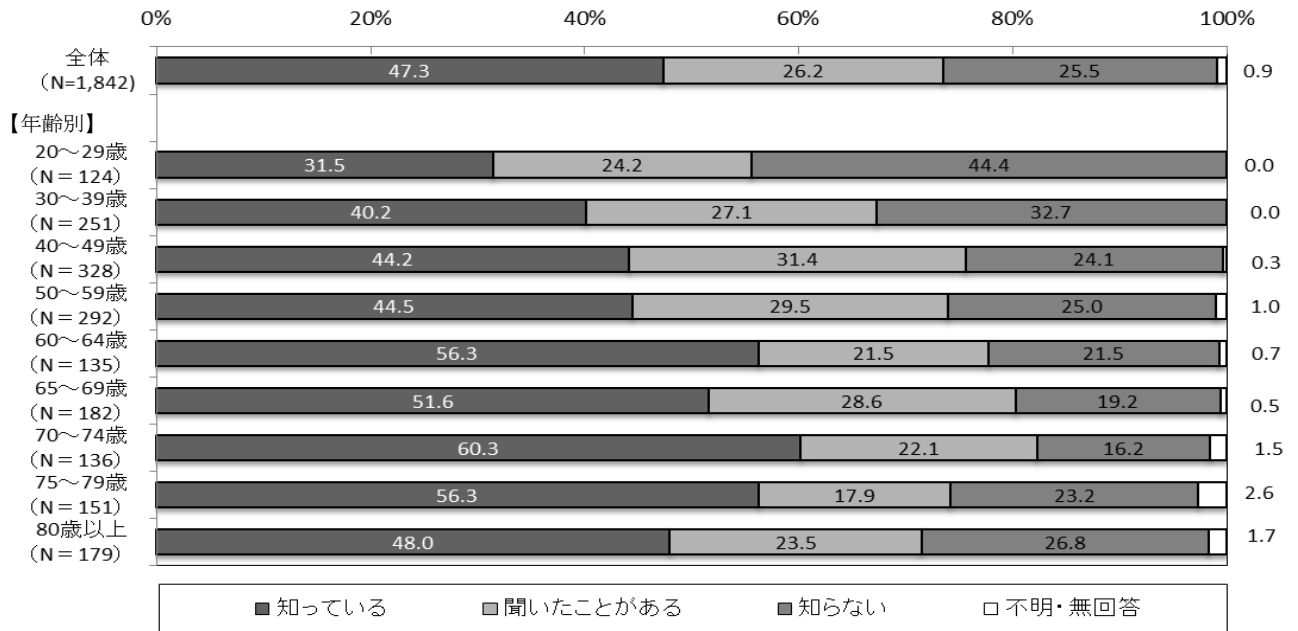


【図 2-1 医療情報の入手先】

(3) 医療機関の機能分担・選定療養費について

ア 医療機関の機能分担の認知度

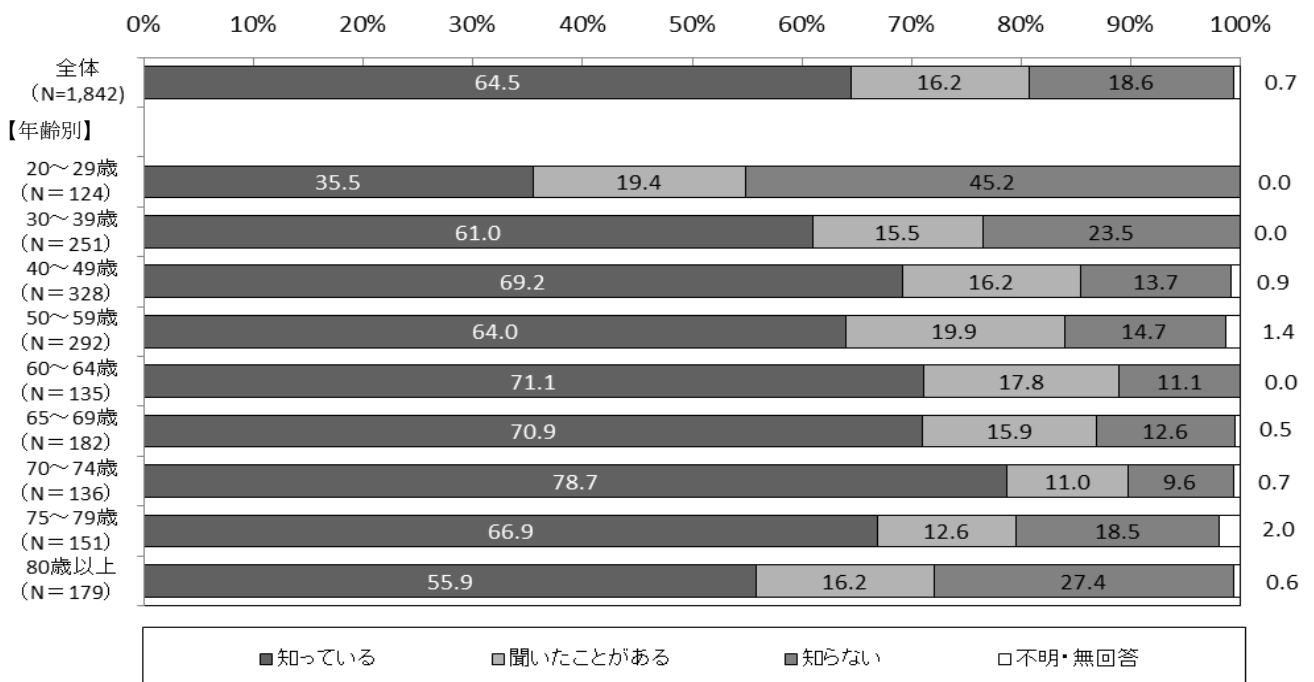
- ✓ 回答者全体の約半数が、医療機関の機能分担について認知している。
- ✓ 年齢とともに機能分担の認知度が上昇していく傾向がある。



【図 3-1 医療機関の機能分担の認知度】

イ 初診時選定療養費の認知度

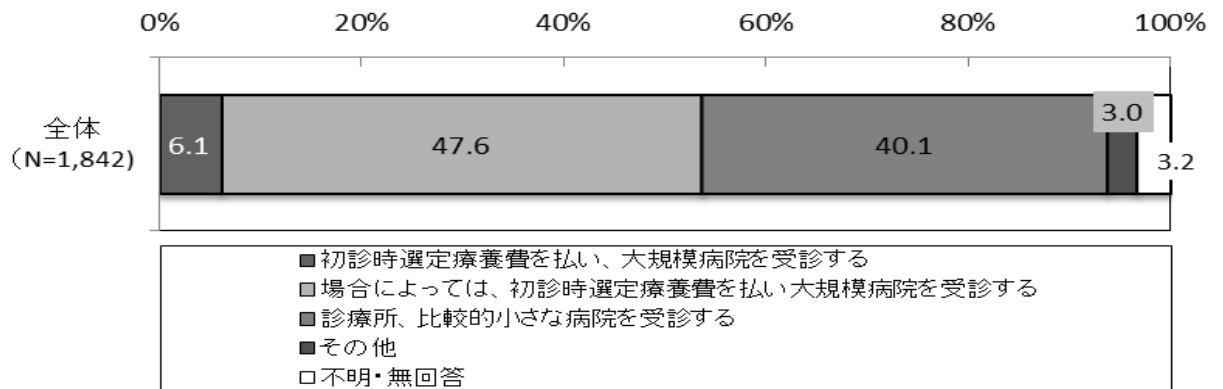
- ✓ 全体では「知っている」と回答した人が最も多く 6 割を超えている。
- ✓ 20 歳代と 80 歳代では、初診時選定療養費の認知度が全体より低い。



【図 3-2 初診時選定療養費の認知度】

ウ 自身が病気になった場合の初診時選定療養費を踏まえた受診行動

- ✓ 初診時選定療養費を払い、大規模病院を受診すると回答したのは全体の6.1%。
- ✓ 場合によっては、初診時選定療養費を払い大規模病院を受診すると回答したのは、全体の半数近くいる。

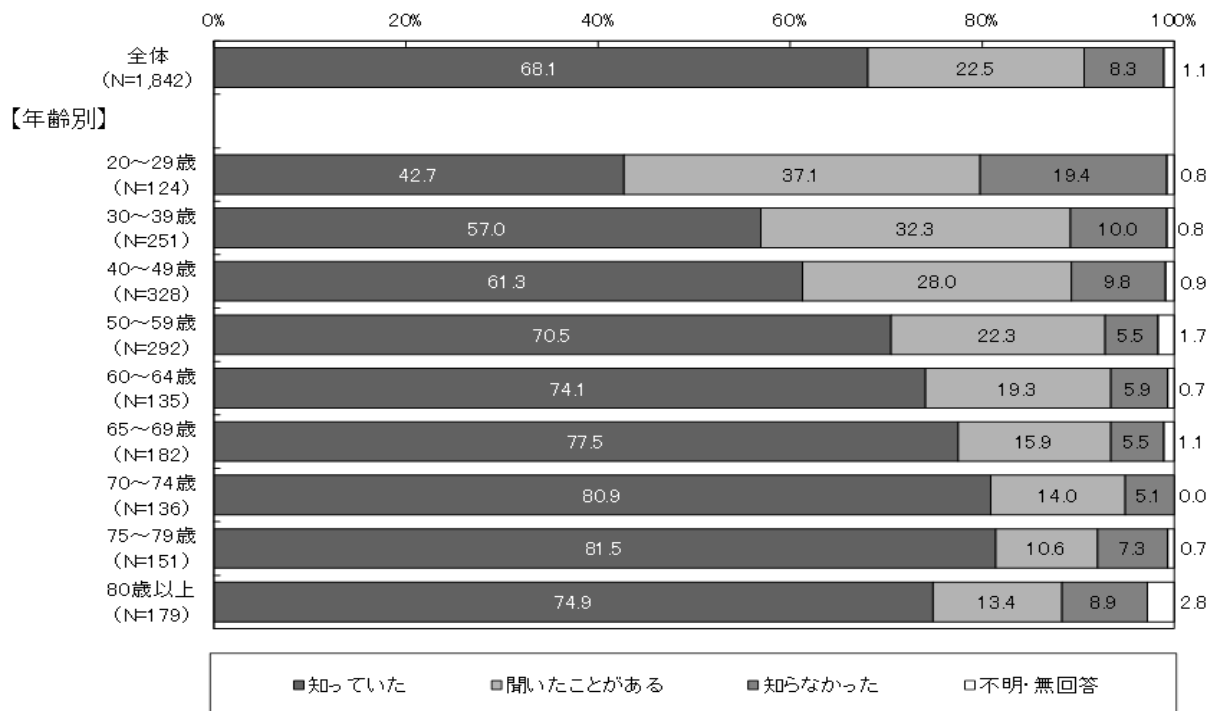


【図 3-3 初診時選定療養費と受診行動】

(4) かかりつけ医について

ア かかりつけ医の仕組みの認知度

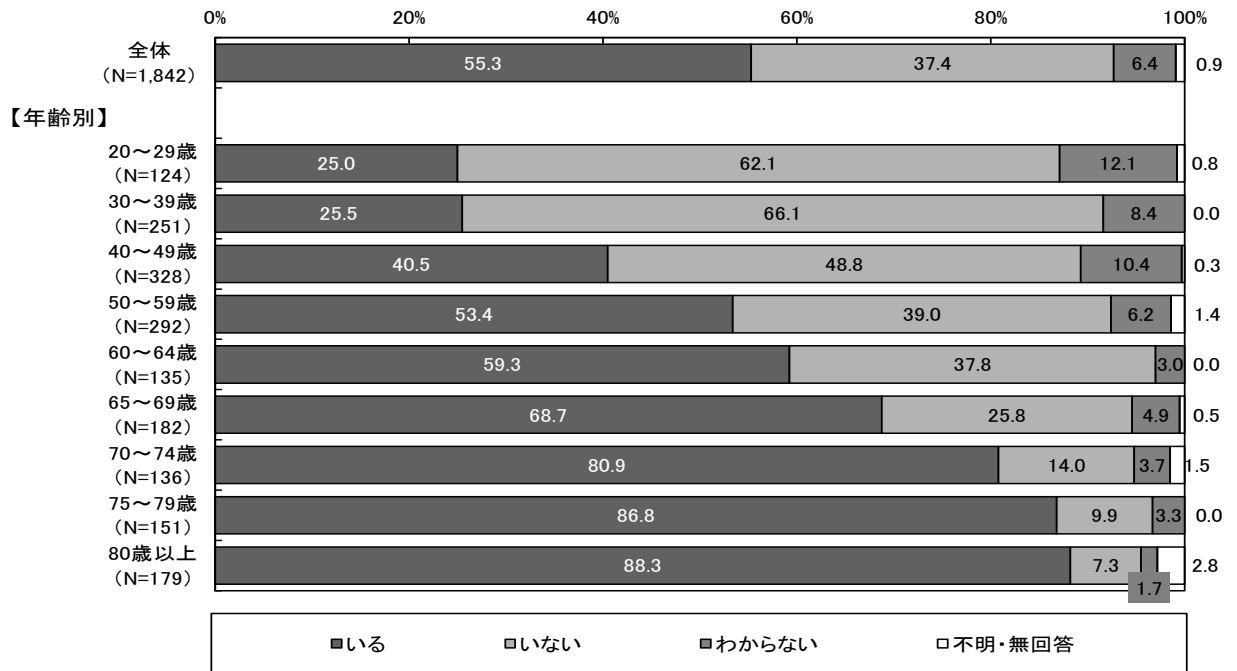
- ✓ かかりつけ医の仕組みについて知っていた人は約7割。
- ✓ 年齢とともに、かかりつけ医の仕組みの認知度が上昇していく傾向がある。



【図 4-1 かかりつけ医の認知度】

イ かかりつけ医の有無

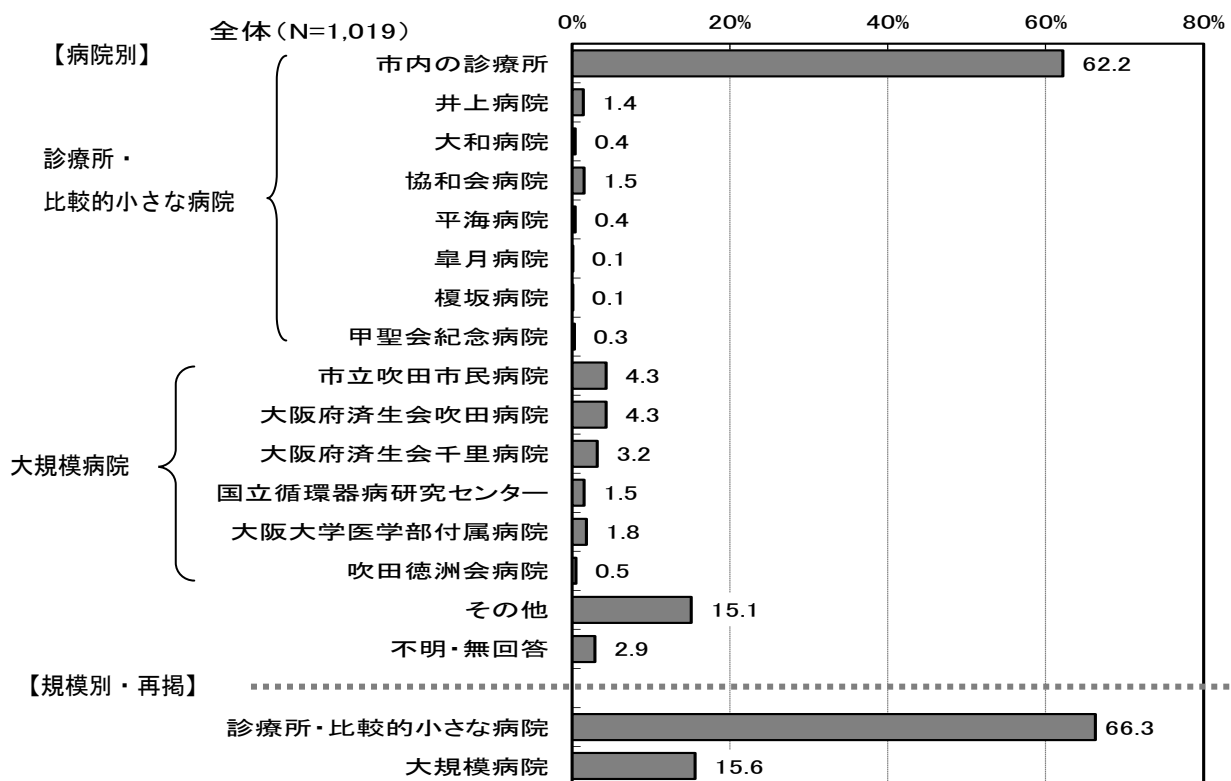
- ✓ かかりつけ医がいる人は約半数で、年齢が上がるほどかかりつけ医が「いる」割合が増加する。



【図 4-2 かかりつけ医の有無】

ウ かかりつけ医の種類（一般病床 200 床以上の市内の病院・それ以外の病院等）

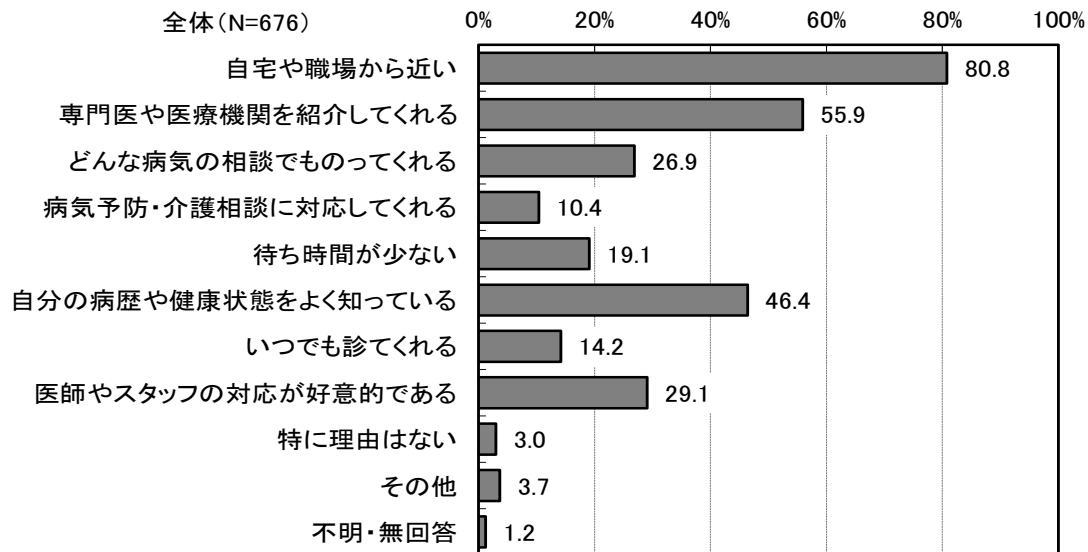
- ✓ 市内の診療所をかかりつけ医としている割合は約 6 割いる。
- ✓ 大規模病院をかかりつけ医としている割合は 15.6%となっている。



【図 4-3 かかりつけ医のいる医療機関】

エ かかりつけ医を選択した理由（診療所・比較的小さな病院）（複数回答）

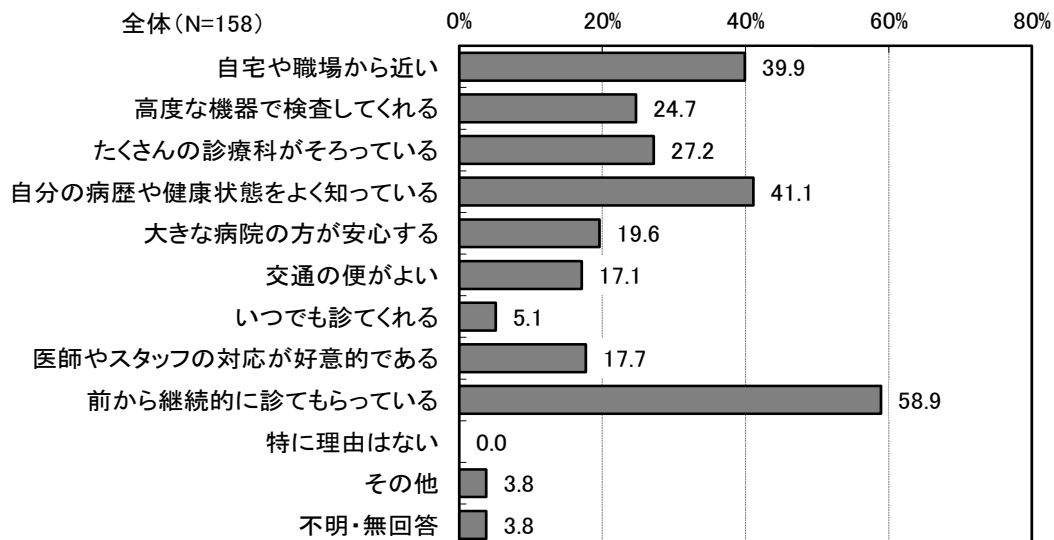
- ✓ 選択した理由では、「自宅や職場から近い」が最も多く 80.8%、次いで「専門医や医療機関を紹介してくれる」が 55.9%となっている。



【図 4-4 かかりつけ医を選択した理由】
（診療所・比較的小さな病院）

オ かかりつけ医を選択した理由（一般病床 200 床以上の病院）（複数回答）

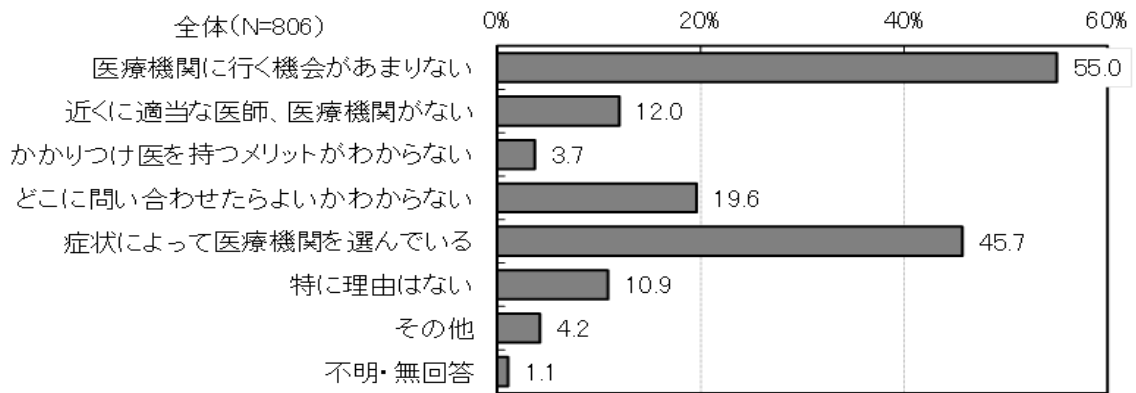
- ✓ 選択した理由では、「前から継続的に診てもらっている」が最も多く 58.9%、次いで「自分の病歴や健康状態をよく知っている」（41.1%）、「自宅や職場から近い」（39.9%）



【図 4-5 かかりつけ医を選択した理由】
（一般病床 200 床以上の病院）

カ かかりつけ医がない理由（複数回答）

✓ 「医療機関に行く機会があまりない」が最も多く 55.0%、次いで「症状によって医療機関を選んでいる」が 45.7%、「どこに問い合わせたらよいかわからない」が 19.6%

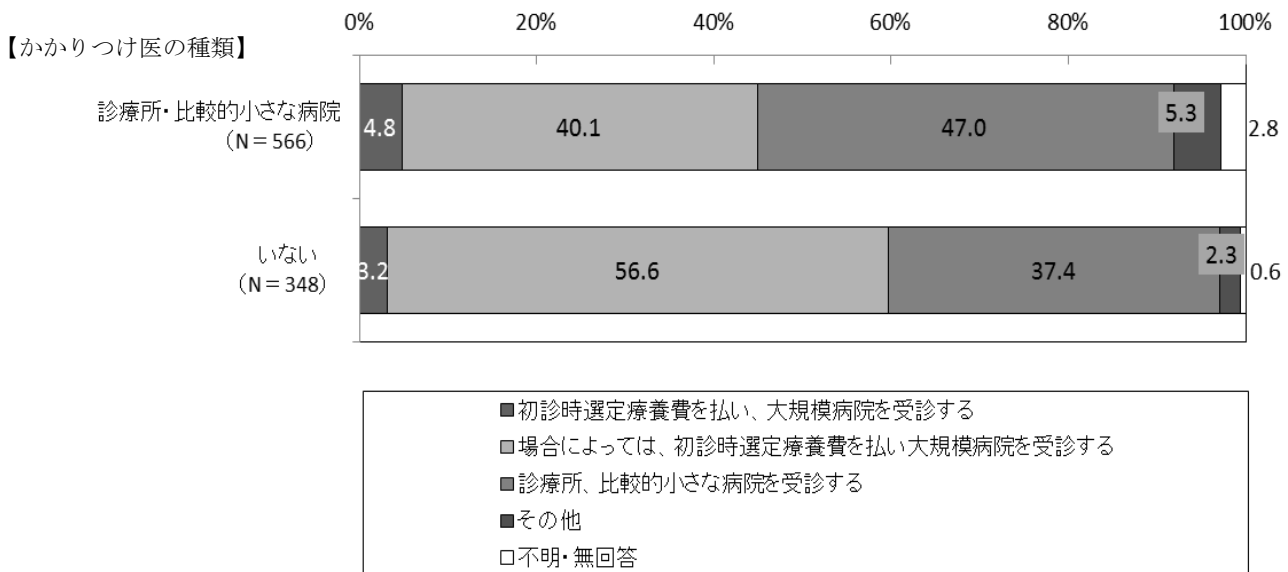


【図 4-6 かかりつけ医がない理由】

《参 考》

キ 初診時選定療養費と受診行動（かかりつけ医の有無別）

✓ 初診時選定療養費と受診行動について、かかりつけ医が診療所・比較的小さな病院にいる場合は、いない場合より診療所等を受診する割合が高くなり、大規模病院を受診する（場合によっては含む）割合が下がる。

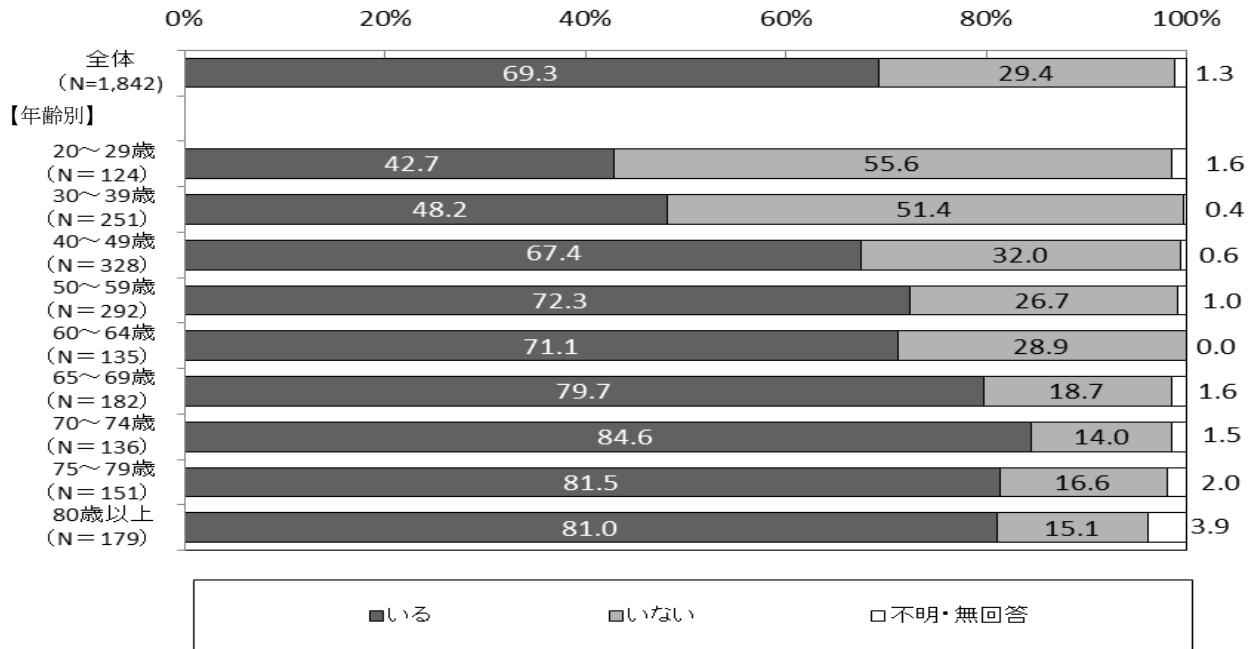


【図 4-7 初診時選定療養費と受診行動】

(5) かかりつけ歯科医について

ア かかりつけ歯科医の有無

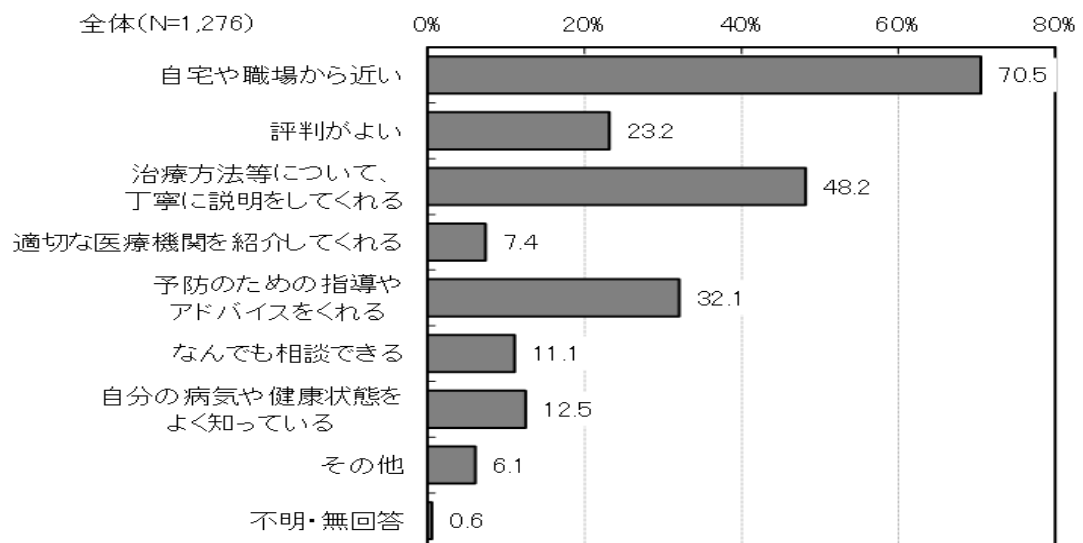
- ✓ かかりつけ歯科医がいる人は約7割、年齢が上がるほど「いる」割合増加。
- ✓ かかりつけ医よりもかかりつけ歯科医の方がいる割合が高い。(P6. 図4-2)



【図5-1 かかりつけ歯科医の有無】

イ かかりつけ歯科医を選択した理由（複数回答）

- ✓ 選択した理由は「自宅や職場から近い」が最も多く70.5%、次いで「治療方法等について丁寧に説明してくれる」が48.2%となっている。

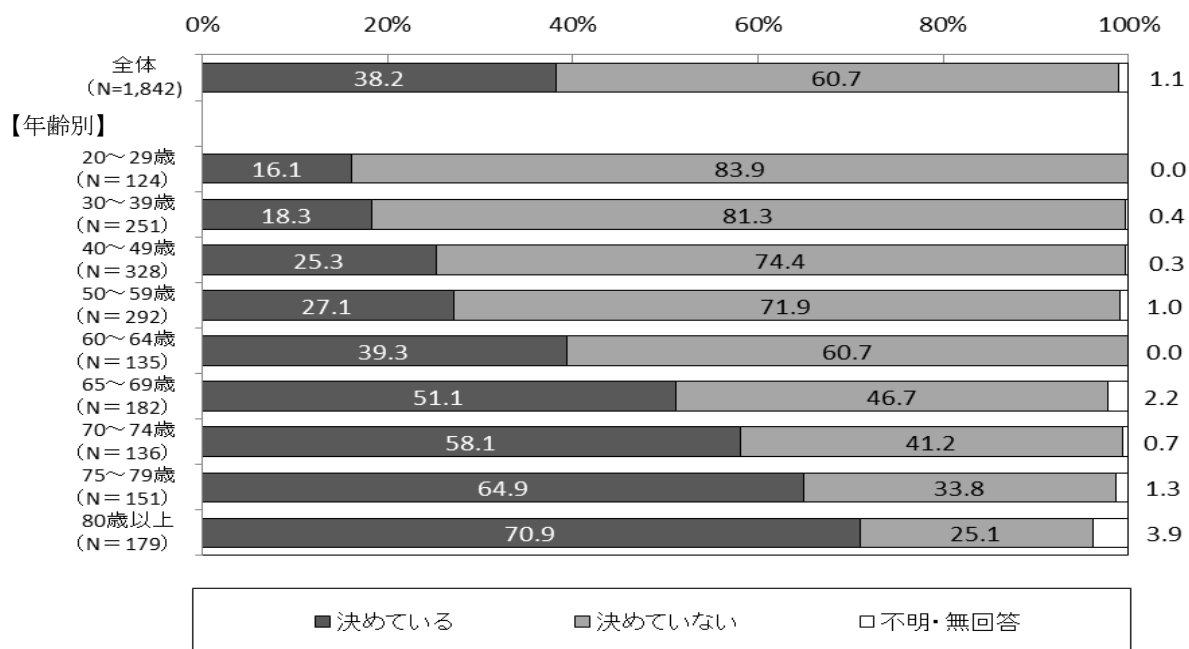


【図5-2 かかりつけ歯科医を選択した理由】

(6) かかりつけ薬局について

ア かかりつけ薬局の有無

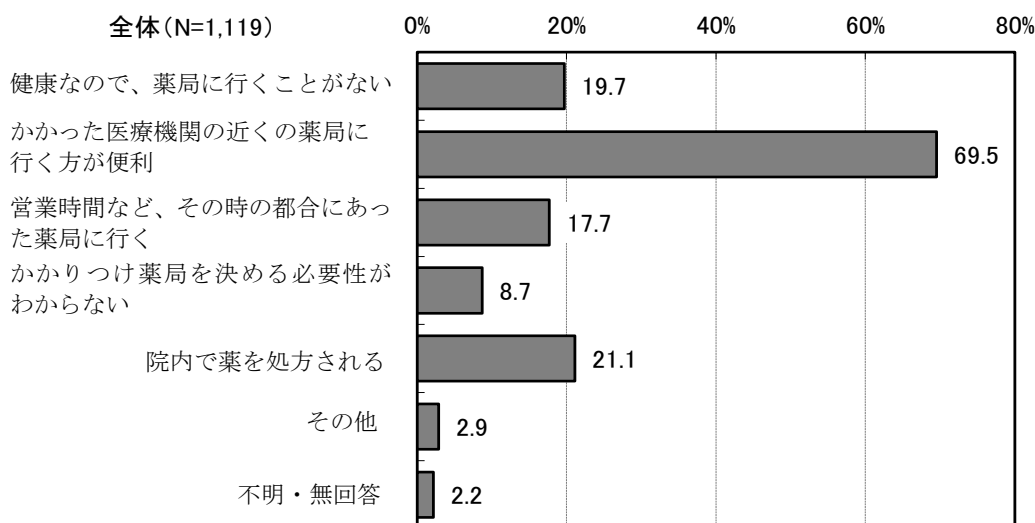
- ✓ かかりつけ薬局を決めている人は約 4 割、年齢が上がるほど薬局を決めている人が増加している。



【図 6-1 かかりつけ薬局の有無】

イ かかりつけ薬局を決めていない理由（複数回答）

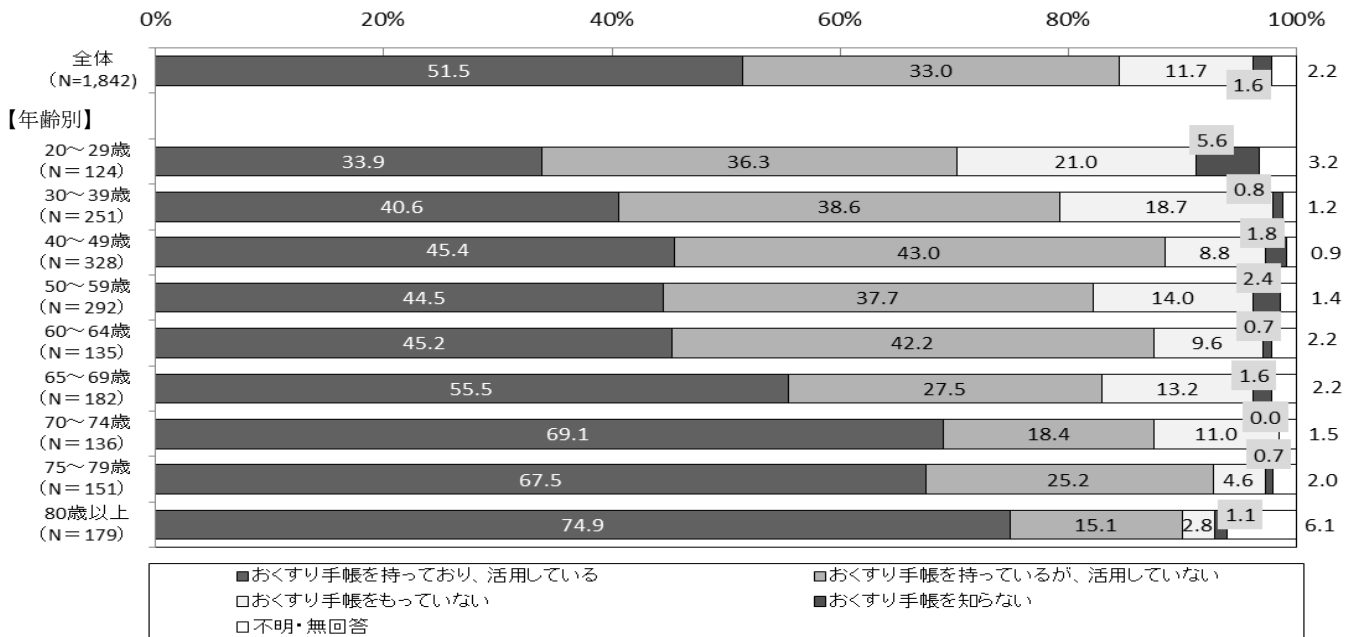
- ✓ かかりつけ薬局を決めていない理由は、「かかった医療機関の近くの薬局に行く方が便利」が最も多く 69.5%。



【図 6-2 かかりつけ薬局を決めていない理由】

ウ おくすり手帳の所持・活用状況

- ✓ おくすり手帳を持っており活用している人は約半数。年齢の上昇とともにお薬手帳の所持率が上がる。

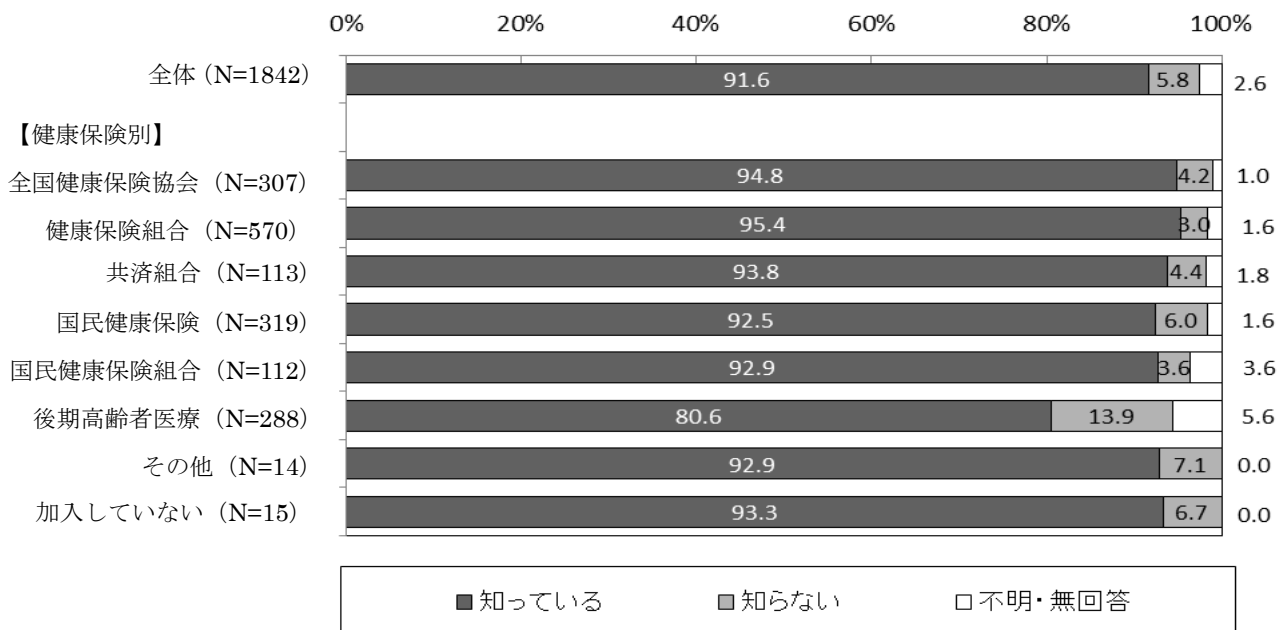


【図 6-3 おくすり手帳の所持・活用状況】

(7) ジェネリック医薬品について

ア ジェネリック医薬品の認知度

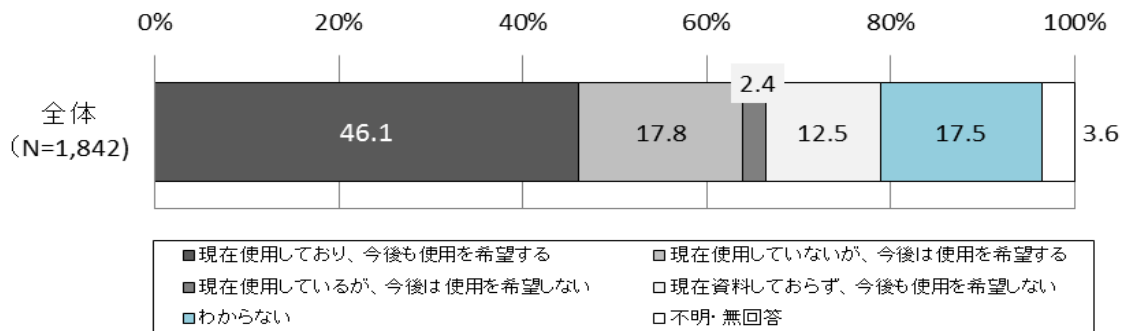
- ✓ ジェネリック医薬品について、全体では約9割が知っている。
- ✓ 加入保険別で見ると、後期高齢者医療加入者は、他の健康保険加入者に比べて認知度が低い (80.6%)



【図 7-1 ジェネリック医薬品の認知度】

イ ジェネリック医薬品の使用希望の有無

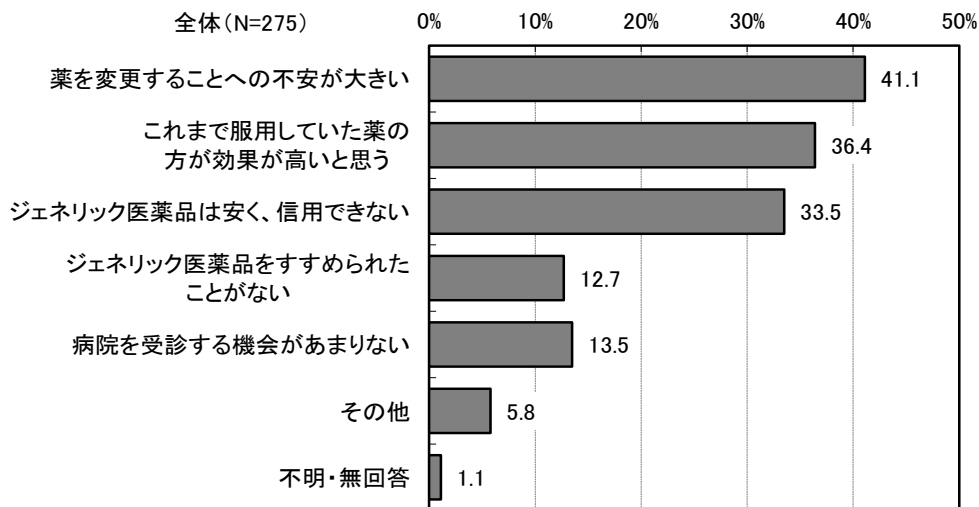
- ✓ 今後、ジェネリック医薬品の使用を希望する割合（「現在使用しており、今後も使用する」と「現在使用していないが、今後は使用を希望する」の合計）は約 6 割となっている。



【図 7-2 ジェネリック医薬品の使用希望の有無】

ウ ジェネリック医薬品を希望しない理由

- ✓ 希望しない理由として最も多かったのは「薬を変更することへの不安が大きい」で 41.1%

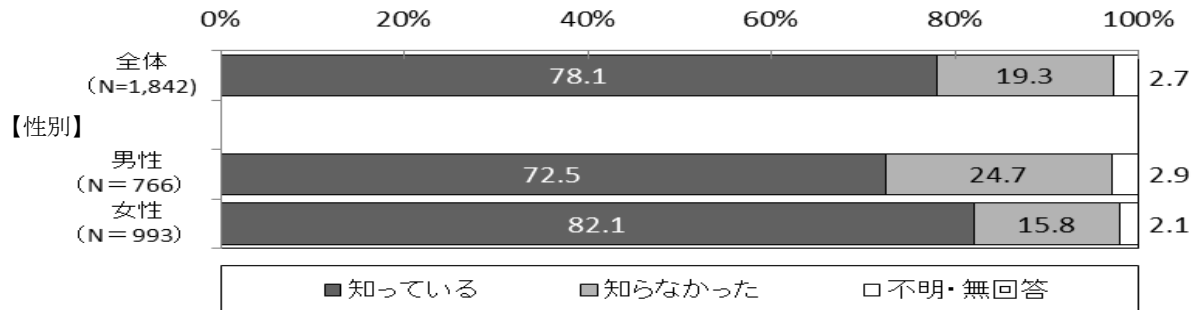


【図 7-3 ジェネリック医薬品を希望しない理由】

(8) 在宅医療について

ア 在宅医療の認知度

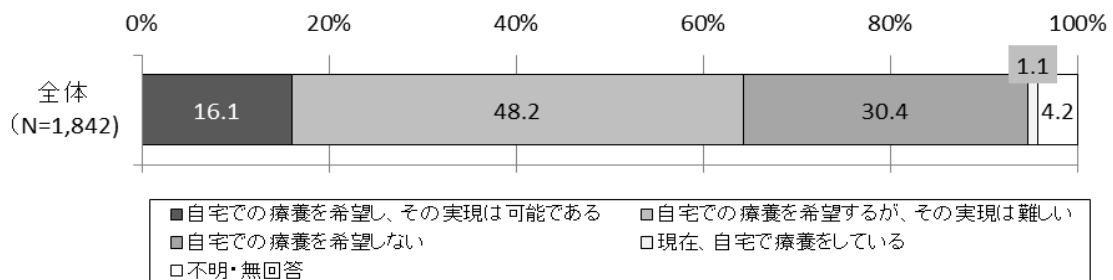
- ✓ 在宅医療について知っているとは回答した方は、全体の8割近くいる。
- ✓ 男性（72.5%）に比べ女性（82.1%）の認知度は、1割程度高い。



【図 8-1 在宅医療の認知度】

イ 自宅療養に対する希望

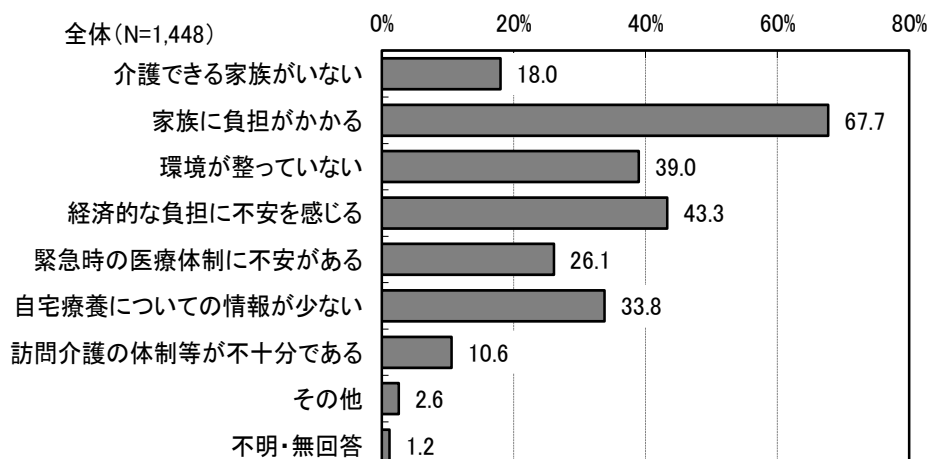
- ✓ 自宅療養について、希望し、実現可能とする人は16.1%、希望するが実現は難しいとする人は48.2%



【図 8-2 自宅療養に対する希望】

ウ 自宅療養を希望しない理由・困難だと思う理由（複数回答）

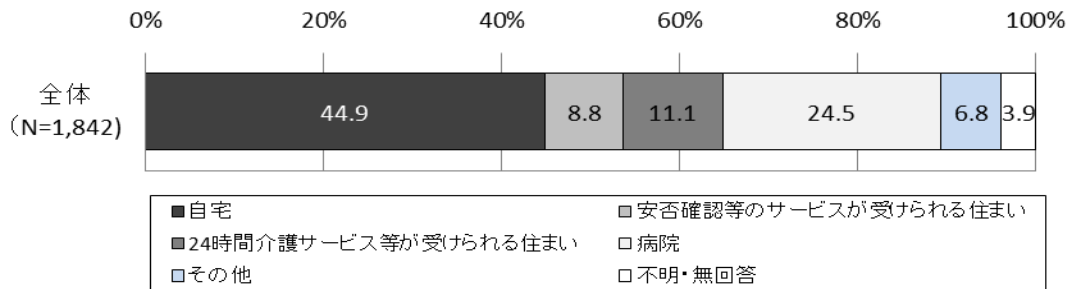
- ✓ 自宅療養が実現困難あるいは希望しないとする理由は、「家族に負担がかかる」が67.7%と最も多い。



【図 8-3 自宅療養を希望しない理由・困難だと思う理由】

エ 自分の人生の最期はどこで迎えたいか

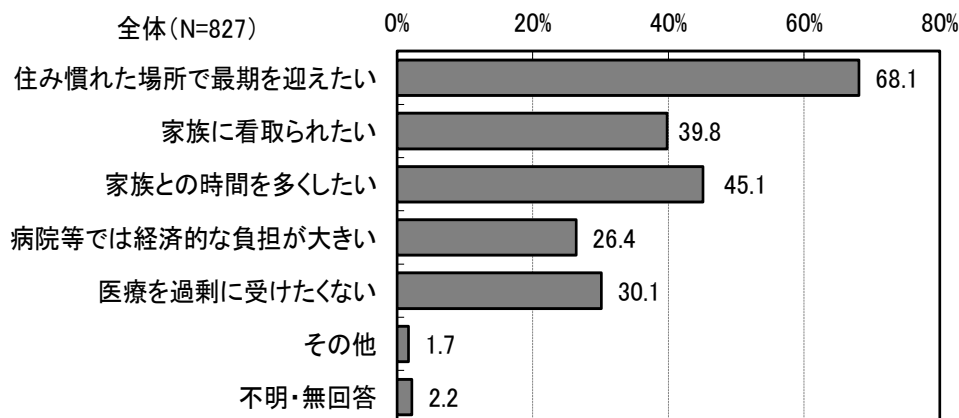
- ✓ 人生の最期をどこで迎えたいかについては、「自宅」が最も多く（44.9%）、次いで「病院」（24.5%）となっている。



【図 8-4 自分の人生の最期はどこで迎えたいか】

オ 自分の人生の最期を「自宅」で迎えたい理由（複数回答）

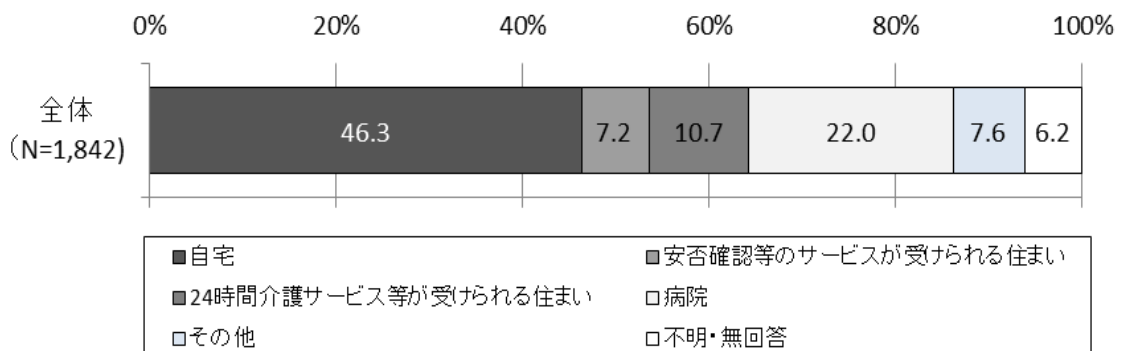
- ✓ 理由として最も多かったのは「住み慣れた場所で最期を迎えたい」で 68.1%、次いで「家族との時間を多くしたい」が 45.1%



【図 8-5 自分の人生の最期を「自宅」で迎えたい理由】

カ 家族の人生の最期はどこで迎えさせてあげたいか

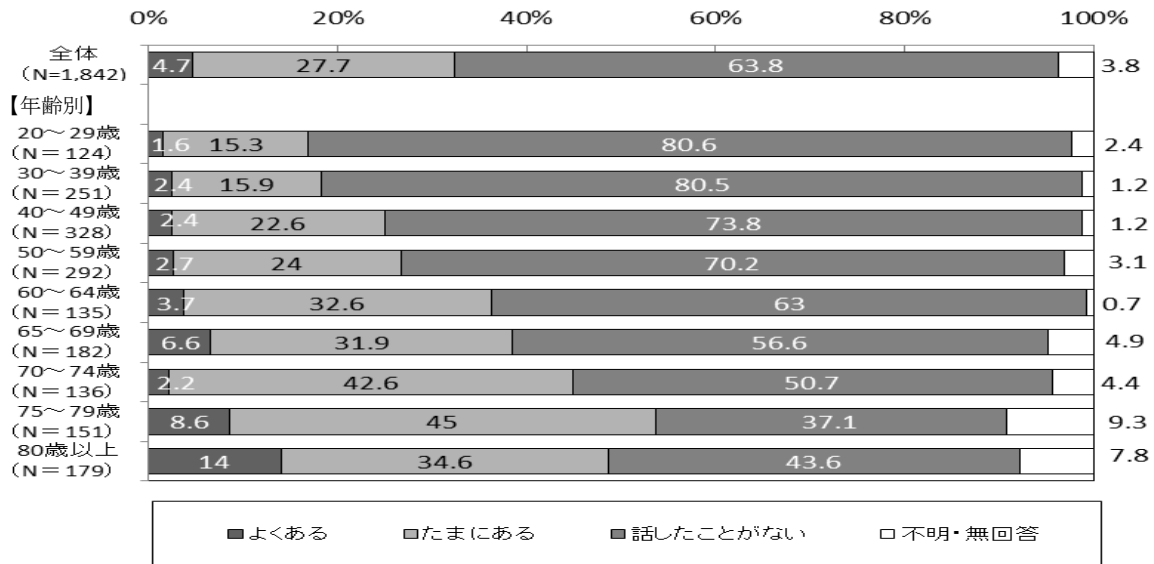
- ✓ 家族の人生の最期をどこで迎えさせたいかについては、「自宅」が最も多く（46.3%）、次いで「病院」（22.0%）



【図 8-6 家族の人生の最期はどこで迎えさせてあげたいか】

キ 人生の最期を迎えたい場所について、家族と話をするか

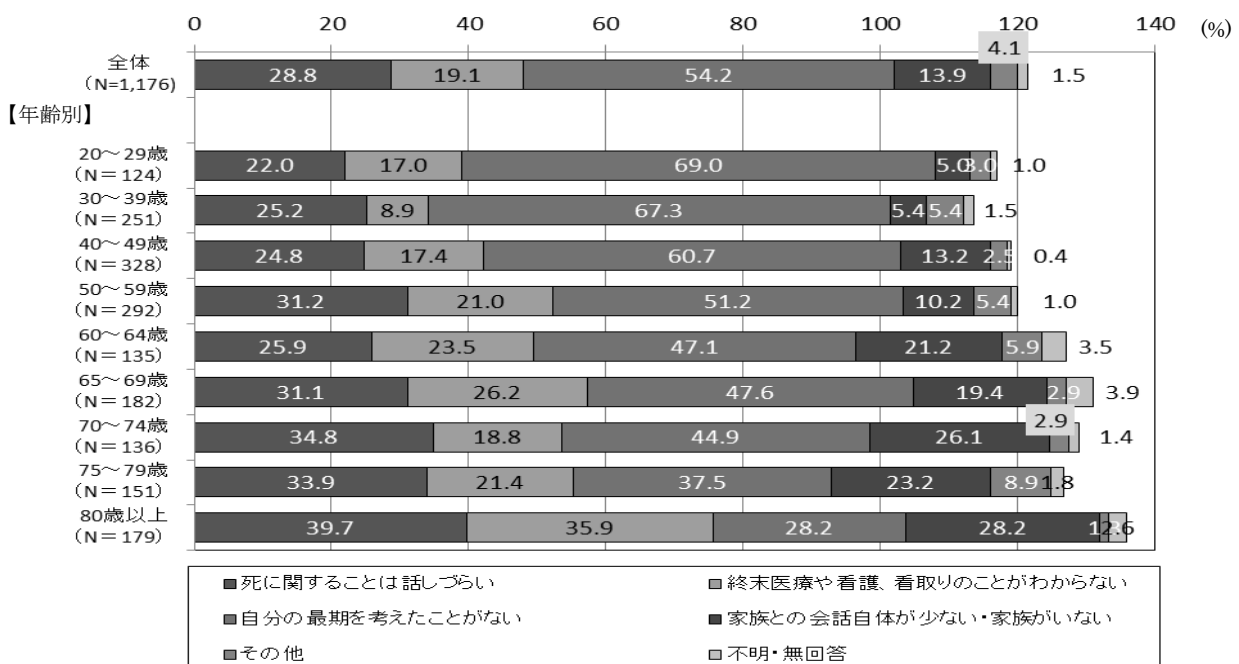
- ✓ 最も多かったのは「話したことがない」で63.8%
- ✓ 人生の最期について、話したことがある（「たまにある」を含む）方は年齢とともに増えてきており、75歳以上では話したことがある割合が、「話したことがない」割合を上回っている。



【図 8-7 人生の最期を迎えたい場所について、家族と話をするか】

ク 人生の最期を迎えたい場所について、家族と話をしない理由（複数回答）

- ✓ 理由として最も多かったのは「自分の最期を考えたことがない」で54.2%
- ✓ 年齢が上がるほど、「自分の最期を考えたことがない」が減少し、80歳以上では、「死に関することは話しづらい」、「終末医療や看護、看取りのことがわからない」が「自分の最期を考えたことがない」を上回る。

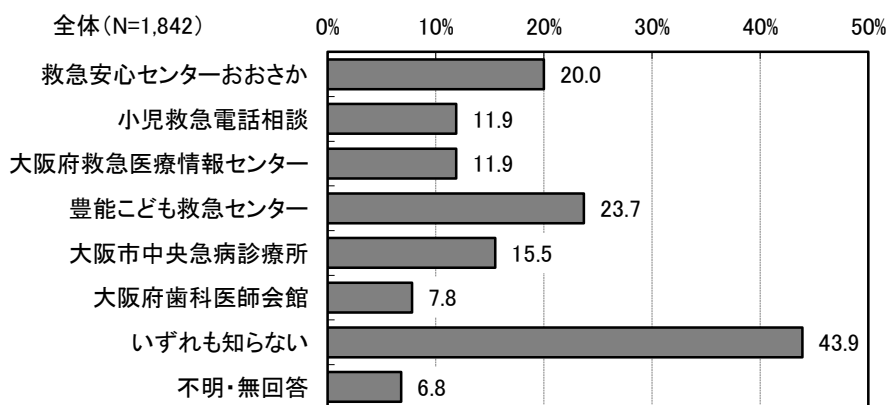


【図 8-8 人生の最期を迎えたい場所について、家族と話をしない理由】

(9) 救急医療について

ア 市内救急病院以外の相談・受診先の認知度（複数回答）

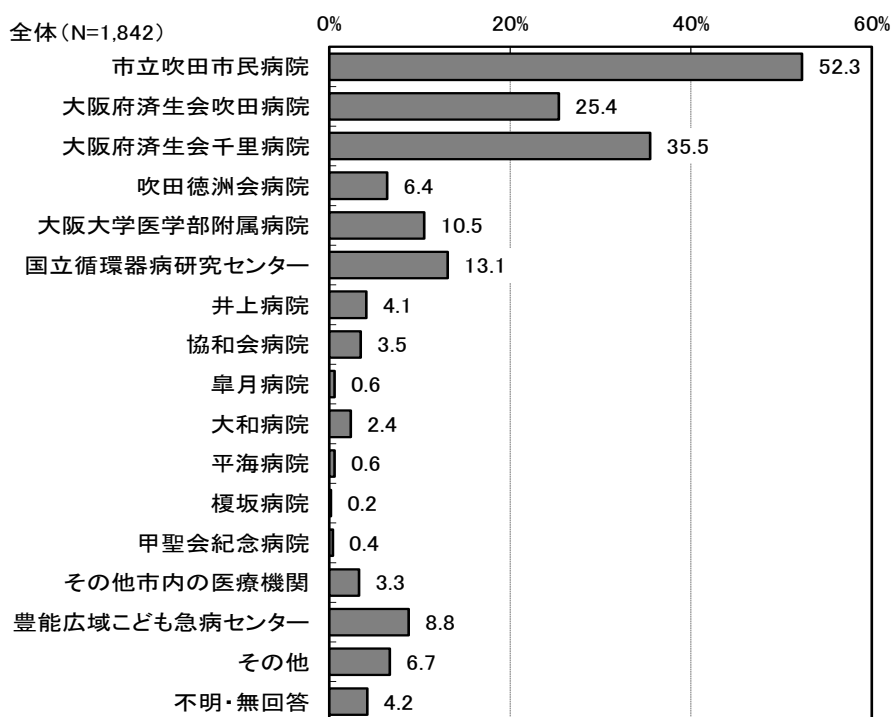
- ✓ 市内の救急対応医療機関以外の相談・受診先について「いずれも知らない」が最も多く 43.9%



【図 9-1 市内急病病院以外の相談・受診先の認知度】

イ 平日夜間の急病時に受診する医療機関（複数回答）

- ✓ 平日夜間の急病時に受診する医療機関については、「市立吹田市民病院」が最も多く 52.3%、次いで「大阪府済生会千里病院」で 35.5%

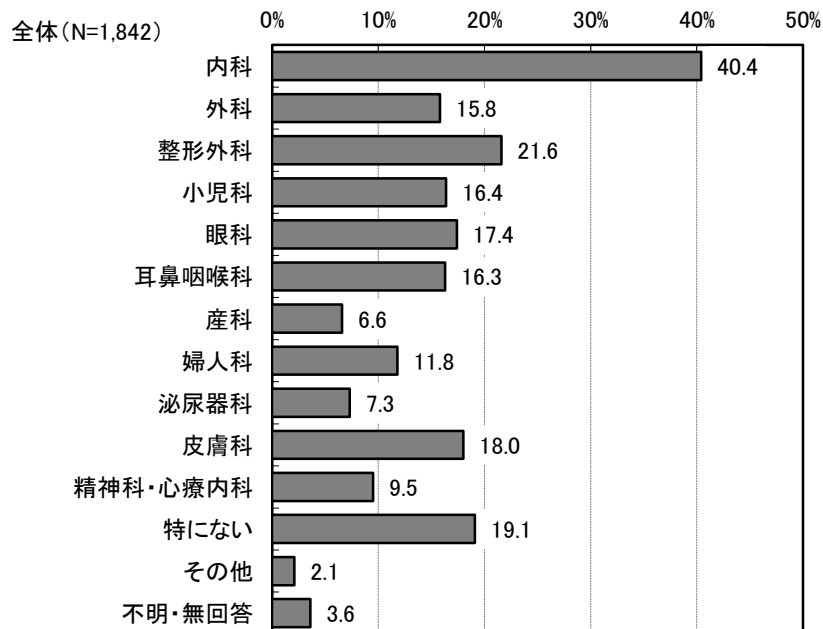


【図 9-2 平日夜間の急病時に受診する医療機関】

(10) 充実して欲しい医療について

ア 充実して欲しい診療科目（3つまで回答）

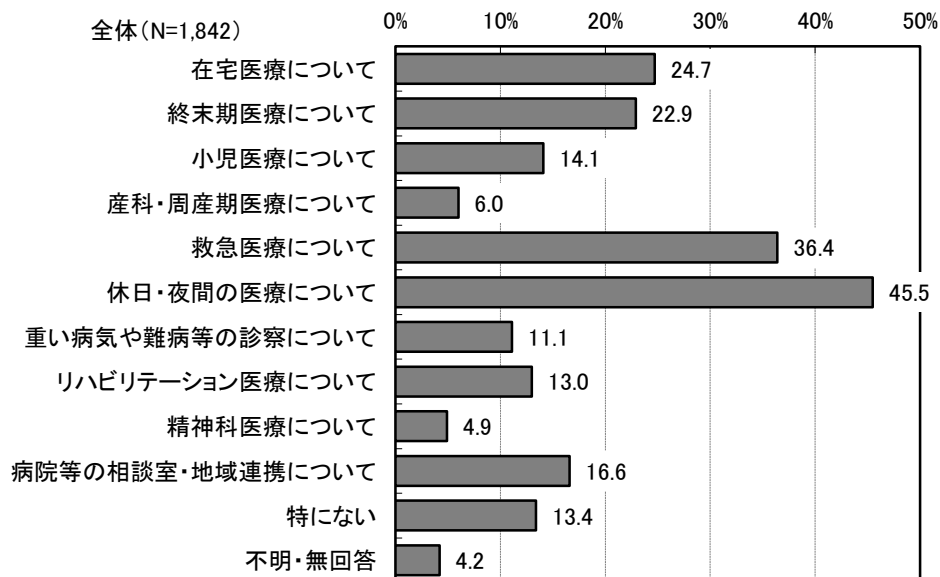
- ✓ 市内で充実して欲しい診療科目として最も多かったのは「内科」で40.4%
- ✓ 「整形外科」については、50歳代以上で充実してほしいとする割合が高い。



【図 10-1 充実して欲しい診療科目】

イ 充実して欲しい医療（3つまで回答）

- ✓ 充実して欲しい医療として最も多かったのは「休日・夜間の医療について」（45.5%）で、次いで「救急医療について」（36.4%）



【図 9-2 充実して欲しい医療】